

2014 年度 国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究  
第3回 アフリカの社会と笑い研究会

**「夢が人を食う」**  
或るアフリカ社会における他者性の位相  
**岡崎彰(一橋大学)**

【概要】

スーダンのガムク社会には馬鹿げたことをして笑わせる戯け者集団がいるが、なぜか彼らは「夢」と呼ばれる。この昼の「夢」達と夜の夢との関係の謎に魅せられ、アフリカをいったん出て、フーコーに導かれて中世ヨーロッパ世界に立ち寄り、デカルトからフロイトへと関所を潜り抜けてから、アフリカに帰還し、改めて夢と笑いを人類学的想像力を働かせて再検討する。

**フィールドで笑われるとき**  
**大石高典 (総合地球環境学研究所)**

【概要】

フィールドワークは、自分のキャラに影響され続ける。大学院に入ったばかりのころ、初めて研究者としてアフリカに行く前にインフォーマルにフィールドワークの手ほどきを受けた。そのとき、「フィールドのひとと仲良くなりなさい、でもナメられてはあきません」と習った。その数年後、最初の就職先の上司からは「人に笑われるような人間にこそならなきゃ研究なんてはじまんないよね」と日々諭された。この発表では、これまで断続的に続けているカメルーンでのフィールド生活のなかで、結果として自分が笑われまくった経験について振り返りながらアフリカ社会における笑いについて考えてみたい。

**日時： 2015 年 1 月 22 日(木)18:00～19:30**  
**場所： 諒友館 821 教室 (事前の参加申込不要)**



お問合せ：岩田拓夫 (t-iwata@fc.ritsumei.ac.jp)